

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	高橋 秀和
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	准教授
在籍年	6

教育の責任

専門教育においては、公衆衛生学・環境衛生学分野の科目（環境衛生学・公衆衛生学 B・獣医公衆衛生学実習）を担当している。卒業研究指導や研究活動においては主に環境衛生学分野を専門としている。基盤教育においては「情報リテラシー」を担当していて、2024 年度より学部 of ICT・ネットワーク委員会の委員長も務めている。

教育の理念

シンプルに学生に有意義で役に立つ授業をしたい。「好きこそ物の上手なれ」に基づいて、その科目を勉強することや調べることが好きになるような授業にしたい。獣医公衆衛生学実習や情報リテラシーのような実践的授業では、将来にわたって学生が実際に自身で操作できることや自身で考えることも重要視している。環境衛生学や公衆衛生学の講義については、長期的に定着させることも目指している。獣医学部は国家試験があり科目数も多いので、丸暗記には限界があることもあり、定着させるためには論理的な思考プロセスを磨くことも大切と考えている。そのためには教え方を工夫することに加えて、適正な試験なども重要と考えている。主観的な教育理念や指標は恣意的に設定できてしまうので、学生による評価や試験等の出来などの客観的指標を重視して授業改善を行っている。ただし、出席や成績や単位の評価が厳しいと学生の授業への評価は低くなる傾向があるが、出席や成績評価や単位認定を不当に甘くすることはしない。学生間の機会の均等性や評価の平等性にも留意している。大学の方針に合致しないことは原則行わない。研究室配属学生の研究指導も重要な教育と考えている。

教育の方法・方針

- コアカリキュラム教科書等に記載された内容を網羅しつつ、発展的な内容も適宜加えている。
- 説明では分かりやすいように図表や写真を多く取り入れている。問題も与えて理解を深めるようにしている。実習等のレポート課題では学生に考えさせる内容を心がけている。
- 必要に応じてメディア教育の手法を取り入れている。「情報リテラシー」や「専門英語 IIA」（2023 年度まで担当）は大学に申請して Video On Demand(VOD)授業で実施した。
- 教員に労力が大きいことでも学生に真に有意義なことは実行している。「情報リテラシー」は以前 2 年次等に実施されていたが、1 年次科目に最適なため 1 年次春学期に移行させて、移行年度は 1 年次と 2 年次の 2 授業を実施した。「環境衛生学」の教科書が改訂された際には、改訂内容を 1 か月後から始まった講義に即座に全て反映させた。「獣医公衆衛生学実習」はコロナ禍の年度も遠隔ではなく分散対面で全実験を実施した。
- 出席と遅刻、レポート、提出締切などにおいては、学生間の公平性に（真面目に行なった学生が損をしないように）も配慮している。
- シラバス、アンケート所見、合理的配慮とその報告提出など大学のルールを原則全て守っている。要配慮申請は私まで届いたものについては原則として全て対応してきたはずである。
- 配属学生の研究指導においては、それぞれの学生の状況にもできる限り配慮している。

教育の成果

授業改善のエビデンスとして、年間の自身の全担当科目（一部の日のみ担当する科目や再履修科目を除く）を平均すると、大学のホームページで公表されている本学全授業における満足度アンケートへの肯定的回答の割合を 2021 年度からは上回っていることや、記述欄に肯定的コメントの割合が増加したことや予想外のコメントが出にくくなったことなどが挙げられる。

今後の目標

赴任して6年が経過し授業内容の当座の改善は一巡していることもあり、国家試験や卒業後まで記憶に定着する授業にすることを追加の目標としたい。卒業後の定着や評価を知ることは難しいこともあり、国家試験における自身の担当科目から出題された問題における本学部学生の正答率が分かれば、さらなる授業改善のための代替的な数値指標としたい。ただし、コアカリキュラム教科書の改訂や情報リテラシーにおけるPC演習室のソフトウェアバージョンアップ等によって、授業内容の大幅変更の必要性が生じれば、そちらを優先する可能性が高い。研究室配属された学生の研究指導や学びを含めて、研究活動も充実させていきたい。

根拠資料

シラバス、授業資料、2019~2024年度授業アンケート結果、国家試験結果